

資 料

歯肉炎に関するリーフレット配布を受けた中学生の男女間の 口腔保健行動の違い

中島 陽子^{1,2)} 犬飼 順子¹⁾ 高阪 利美¹⁾ 向井 正視¹⁾

概要：中学生の歯肉炎は口腔保健行動や生活習慣と関連している。現在、わが国の歯肉炎は中学生頃より増加し、成人期になると歯周病有病者率が年齢とともに高くなっていることから、中学生の時期から歯周疾患に関する知識を深め、予防対策をとり成人期を迎えることが課題となっている。さらに、中学生は歯肉炎などの口腔内の状況、健康意識や生活習慣に性差が認められることから、中学生への健康教育は性差を考慮する必要がある。

現在中学校では口腔保健の教育ツールとして、手軽にできるリーフレット配布による健康教育が行われており、多くのリーフレットが発行、配布されている。そこで、本研究では歯肉炎に関するリーフレット配布を受けた中学生の男女間の口腔保健行動の違いを理解するために、歯肉炎に関するリーフレット配布を受けた中学生1年生の口腔保健行動を質問紙調査により調査し、男女間で比較した。

その結果、リーフレット配布を受けた後の口腔保健行動には男女間で異なる項目が認められた。リーフレット配布後も男子は女子と比較して口腔清掃習慣や口腔保健に対する意識が低く、口腔保健に関わる生活習慣が乱れやすいことから、中学生に対する口腔保健教育は性別を考慮して行う必要があると考えられる。

索引用語：中学生、口腔保健行動、リーフレット、歯肉炎、男女別

口腔衛生会誌 69：93-97, 2019

(受付：平成 30 年 5 月 8 日／受理：平成 30 年 11 月 13 日)

緒 言

中学生は身体的、精神的に大きく変化する時期である。身体的には第二次性徴の発現とともに身体が劇的に変化する時期であり、精神的には社会に対する関心が増し自我が確立するとともに思春期になり心理的に不安定な時期になる^{*1,2)}。そして生活範囲の拡大や課外活動等への参加に伴う夜ふかし、朝食欠食、睡眠不足、運動不足等などにより生活習慣が乱れやすい時期^{*1)}になる。このような変化からストレスへの感受性が高まり、心理的な影響によるさまざまな健康問題も発現する³⁾。

口腔保健領域では、口腔内の変化に気付く場面が少なくなり健康行動が希薄化して、口腔内は不潔になり、性ホルモンも影響を及ぼし歯肉炎の発症から歯肉出血、さらに口臭も認められる⁴⁾とされている。平成 29 年度学校保健統計調査では中学生の重度の歯肉炎有病率は

4.04%^{*2)}と低いものの年齢とともに増加傾向にあり、成人期になると約 70%の者が歯周病の有病者^{*3)}となる。また中学生の歯肉炎は「毎日テレビを 2 時間以上みる」「毎日顔を洗わない」「毎日テレビゲームをする」などの日常的な生活習慣と関連していることが報告されている^{5,6)}。

一方、歯肉炎は歯肉にわずかに炎症が存在しても一般的に自覚症状がないことから、罹患している自覚は乏しい。そのため、中学生には生活習慣も含めた口腔の健康について自分自身で評価し問題発見、問題解決できる健康教育方法が必要であり、歯肉炎は適切なブラッシングによって改善することが目にみえて実感できるため、体験型学習の学習教材として相応しい題材とされている⁴⁾。

現在、中学生への口腔保健の健康教育方法として、リーフレット、DVD や写真などの活用や、直接的な観

¹⁾ 愛知学院大学短期大学部専攻科 (口腔保健学専攻)

²⁾ 独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院歯科口腔外科

^{*1)} 文部科学省：「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き, http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1354075.htm (2018 年 8 月 29 日アクセス)。

^{*2)} 文部科学省：平成 29 年度学校保健統計調査, <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&tstat=000001011648&cycle=0&tclass1=000001113655&tclass2=000001113656&second2=1> (2018 年 8 月 17 日アクセス)。

^{*3)} 厚生労働省：平成 28 年歯科疾患実態調査, https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450131&tstat=000001104615&result_page=1&second=1 (2018 年 3 月 29 日アクセス)。